

The National Ballet of Japan

NATIONAL
BALLET
OF JAPAN
New National
Theatre, Tokyo

Ballet Tezuka

Characters



2014年、火の鳥連載60周年を記念して企画がスタートした、
新国立劇場バレエ団と、手塚キャラクターのコラボレーション。
手塚治虫のライフワークともいわれている『火の鳥』は、ストラヴィンスキーの
バレエ組曲《火の鳥》に魅せられて、そのイメージを思いついた作品で、
その《火の鳥》と『火の鳥』のコラボレーションが実現しました。
今後は、他のバレエ作品と手塚キャラクターのコラボを展開していきます。



Photo: Takashi Shikama



Photo: Hidemi Seto



《火の鳥》
火の鳥
米沢唯



《白鳥の湖》
オデット
小野 絢子



《白鳥の湖》
ジークフリード王子
福岡 雄大



《火の鳥》
火の鳥
子ロル



《白鳥の湖》
オデット
ピノコ

新国立劇場バレエ団とは

日本の新しい舞台芸術の拠点として開場した新国立劇場とともに、1997年に島田廣芸術監督のもと新国立劇場バレエ団は発足しました。バレエ団は、「白鳥の湖」をはじめとする古典作品から、アシュトン、バラシンといった振付家による20世紀の名作、さらにはエイフマン、ドゥアト、サーブなどの現代振付家の作品に至るまで幅広いレパートリーを持っています。また、世界の振付家に新作を委嘱して新国立劇場オリジナル・バレエのレパートリー化を図るなど、バレエ団としての独自色も打ち出しています。2004年には朝日舞台芸術賞を受賞。2008年には米国ケネディ・センターにおいて海外デビューを果たし、翌2009年にはモスクワ・ボリショイ劇場に招待され、牧阿佐美振付のオリジナル作品「精姫」を上演し大きな成功を収めました。海外では、ソリスト陣とともに、特に美しいコール・ド・バレエは絶賛され、国際的にも高い関心と評価を得ました。2005年に現代英国を代表する振付家デヴィッド・ピントレーとバレエ団とは公演を通じて強い信頼関係を築き、2008年に、ピントレーは新国立劇場バレエ団のために新作の全幕バレエ「アラジン」を振り付け、2010/2011シーズンより芸術監督に就任。ピントレー芸術監督のもとバレエ団は「A New Direction」という新しいテーマを掲げ、2011年には彼の振付による新作の全幕バレエ「バゴダの王子」を世界初演しました。2014年9月、バレエ団は大原永子を新芸術監督に迎えて、新制作「眠れる森の美女」で新しい時代の幕を開け、さらなる飛躍を目指しています。